

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	－	－	－
(四国)	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年と変わらないが、外商売上が伸びており、総合売上は前年を超えた。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・ワクチン接種が進み、販促日やピーク時の来客数が増加した。密に対する客の意識に変化がうかがえる。
	○	スーパー（財務担当）	単価の動き	・新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置で、外食需要を取り込めている。
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・この9月は、地域のキャッシュレス決済による25%還元キャンペーンの恩恵と、たばこの値上げに伴う駆け込み需要により、何年ぶりかにプラス推移となった。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、僅かだが予約数が増加している。
	□	商店街（事務局長）	販売量の動き	・多くの人々が安心して旅行や外食に出掛けられるようにならないと、衣料品や雑貨の売上も上がらない。何度も感染拡大と行動自粛を繰り返してきたので、まだまだ用心している人が多数派であり、今後の感染状況を大変注視している。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・街や商店などの店舗の来客は極端に少ないが、反対にスーパーマーケットや産直市は密になってレジも長蛇で列になる。自粛期間中も関係なく人手があった。
	□	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、消費者マインドが冷え込んでおり、回復していない。
	□	百貨店（販売促進）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置などにより、特に土曜日や日曜日の外出意欲が低下している。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・9月一杯までは外食の自粛が続き、家庭での食事が継続して増えている。各種の制限が解除されても以前の状況に戻るのには時間が掛かる。
	□	コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・来客頻度が落ち、客単価が上がっているが、レジャーシーズンとしてはかなり悪い。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・本年もコロナ禍による影響は大きいですが、前年減少した来客数が依然として戻っていない。売上高が前年比で微増なのは客単価増加による企業努力が大きく、状況はほとんど変わっていない。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・依然として新型コロナウイルスの影響で来客数が少ない。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新型車のお陰で契約者数は減ってないが、新型コロナウイルスの影響と半導体不足で新車の納入が遅れている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月も新型車の発表があり、新車受注は前年比並みの推移であるが、生産台数の遅れにより販売台数は非常に厳しい状況である。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・受注は前年並みの数字を稼げているが他国の新型コロナウイルスの感染拡大による半導体や工場の稼働停止により生産台数が減少しているため、売上に大きく影響してくる。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・これまでのところ、大きな変化はない。
	□	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の適用により、新規の受注がなく、修学旅行等も日帰り又は延期になっている。個人についても新規受注はなかった。
	□	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・来客数は多くはないが、販売数は好調を維持している。必要なものであれば購買意欲は下がっていない。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍での生活が日常化している。
	□	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築単価の高止まり、若しくは若干上昇している。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・9月は第5波の影響でかなりの感染者が出た。商店街への来客数がほとんどないという状況が続いており、飲食業を中心に売上がかなり厳しい状況である。

	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の状況が3か月前は減少傾向にあって、多少、商店街に訪れる来客数に回復の兆しがあったが、その後、まん延防止等重点措置の自粛要請があり、減少傾向となった。解除後も、商店街に訪れる来客数は鈍化している。
	▲	商店街（代表者）	それ以外	・我が国、特に地方都市の経済状況が好転する要素は見つからない。新型コロナウイルスの影響やネット社会の進展で人口や企業立地の地方移動が起これと考えていたが、ほとんど兆候がみられない。
	▲	一般小売店 〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・取引先の飲食店が時短営業により、ほとんど納品がない状況である。
	▲	百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・来客数の減少のうち、一般の来店客の減少が売上に影響している。高額商品は比較的安定しているが、それ以外は改善はしていない。客層は、二極化傾向がある。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で客の外出自粛のときと比較すると平常時の来客数まで戻りつつはあるが、販売単価が低いなど販売額は減少し、客足は分散傾向である。
	▲	衣料品専門店 （営業責任者）	来客数の動き	・売上は大幅に減少しており、新型コロナウイルス感染症で大きな影響を受けた前年を更に下回る結果となった。前年よりも売上は10%以上が減少し、前々年比では売上は40%以上減少している。現在については助成金等はなく、経営状態は非常に厳しくなっている。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材を始め、全体的な販売量が減っている。
	▲	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・決算月ながら、前年度回復まで至らず。
	▲	その他専門店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・秋祭りが中止となったため、売上が悪化している。
	▲	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・前年売上が底だと信じていたが、今年の方が更に売上が落ちている。給付金や協力金といった救済もなく、最悪の状態である。
	▲	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・時短営業もあり、客足が激減しているなか、来客数の減少のほか、客単価も下がっている。客の所得減少の影響が大きいものと思われる。
	▲	都市型ホテル （経営者）	販売量の動き	・前年の同時期と比べても先行き不透明感が強い。選挙の影響がある。
	▲	通信会社（社員）	販売量の動き	・当地域の新型コロナウイルス感染防止の警戒レベルの上昇により、訪問販売の販路が稼働停止中であり、販売量が大幅に減少している。
	▲	観光遊園地（職員）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の適用に加え、当地域独自の警戒レベルが最高レベルに引き上げられ、人流が抑制され、顕著に客の出入りが減少した。
	▲	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染防止の観点から、外食や交遊面の出歩き控えの傾向が続いており、関連業者の営業収入は減少傾向にある。
	×	タクシー運転手	それ以外	・当地域の時短要請やアルコール飲料提供の自粛で、客の動きはほとんどない状態である。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置により、夜の店の閉店時間が早くなり、かつ休業している店も多いため、夜間は街に人がいない状況である。また、本来この時期に多いはずの遍路客もさっぱりおらず、最悪の状態である。
企業 動向 関連 (四国)	◎	*	*	*
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量がアップしている。ウッドショックの影響があると見込んでいたが、受注量に影響は少なかった。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・前月に引き続き、受注量は増加傾向である。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は余り伸びていないが、経営努力により利益率が向上した。
	○	税理士事務所	競争相手の様子	・同業の顧問料がかなり高額であっても、客が安定して増えてきている。

	農林水産業（職員）	取引先の様子	・取引先である直販所の月次売上は3か月連続前年同月を下回った。原因は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う飲食店等の業務需要者の来店がパッタリ止まったことが大きく、土日に実施している駐車場での当地域以外のナンバー調査では、当地域のナンバー車は5%未満と少なく、業務需要に次いで売上減少の要因と思われる。また、客単価も少し下がっている。	
	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少している。持続すれば、回復に向かっていくと考える。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・各国政府の経済対策により、市場マインドは上向きつつあるものの、地域的ばらつきが大きく、全体として本格的な需要回復には至っていない。	
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・ワクチンを保管する保冷庫の需要が一段落し、一過性の特需による注文は、落ち着いている。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官民共に工事が非常に少ない。	
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きくは変わらない。期待感はまだ薄い。	
	通信業（総務担当）	それ以外	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染状況もある程度落ち着いていると感じるものの、各種イベントは引き続き自粛やリモート開催となっており、具体的な変化の見込みはない。	
	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・前年同時期と比べると良くなっているが、3か月前と比べると大して変わらない。	
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の代表者等へ景況感をモニタリングしたところ、足元の受注や販売状況に改善がみられず、今後の動向も明るい兆しはないとの見解が大半である。	
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏前から回復基調にあったが、緊急事態宣言が長引き、8月お盆明けから全国的に小売店店頭の上売が厳しくなっている。相変わらず、ネット販売に注力しているルートは好調であるが、全体的に消費マインドが低下しており、不要不急のものには手を出さない。	
	建設業（経営者）	それ以外	・本業は公共事業量の堅調さから、業界全体で悪くはなく、景況感は、これまでと比べて変わらない。しかし、当地域及び周辺地域では、新型コロナウイルス感染対応の警戒レベルが高くなったことから、業務上の行動並びに私的な行動が大きく制限され、景況感は悪くなってきている。	
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象となる地域が拡大したことを受け、四国を発着する貨物の取扱物量の減少に拍車が掛からない状態であり、前年の実績を大きく下回っている。	
	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・海外向けの全体的な輸出数量、国内向けの出荷数量は変わらず減少傾向にある。	
	×	—	—	
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	
	○	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が減少傾向にあると言っても自粛ムードは依然継続している。飲食業界の時短営業の要請により、公共交通機関や観光業界も空前の灯で苦難は逃れていない状況である。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染が落ち着きつつも、経済活動はまだ低調である。
	□	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・求人数については、新規求人数が3か月前の令和3年5月と比べると増加したものの、僅かであったことや、新規求人倍率についても令和3年5月と比べると増加したものの、僅かであったため、現状維持であると判断した。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大のため、実習を伴う授業が通常の実施時期よりも遅い時期での実施となったため、学生の中には就職活動が例年よりも遅れるなど、内定にも影響が出ている面がある。
	▲	求人情報誌（営業）	求職者数の動き	・中途採用での求人数が、多少回復傾向にあるものの、各業種とも低い数字のまま推移している。
	×	—	—	